

ベルリン・フィル首席奏者 A.オットエンザマーの協奏曲

J.シュターミッツ：
クラリネット協奏曲 変ロ長調

ウェーバー：
クラリネット小協奏曲 ハ短調 op.26

ダンツィ：
モーツァルトの歌劇
「ドン・ジョヴァンニ」の
「お手をどうぞ」による変奏曲

ベートーヴェン：
「コリオラン」序曲

ベートーヴェン：
交響曲 第7番 変長調 op.92

座不附

アンドレアス・オットエンザマー (クラリネット) & ヴァンタートゥール・ムジークコレギウム

ANDREAS OTTENSAMER MUSIKKOLLEGIUM WINTERTHUR

2017 **11.30** (木) 7:00pm開演
(6:00pm開場) S席 5,000円 A席 4,000円(税込)

ザ・シンフォニーホール

主催：ザ・シンフォニーホール

【ご予約・お問合せ】

■ ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (10:00~18:00 火曜定休) <http://www.symphonycorner.jp>

【プレイガイド】

■ e+ (イープラス) <http://eplus.jp/symphonycorner/> (パソコン・携帯) ■ チケットぴあ 0570-02-9999 [Pコード:325-882]

■ ローソンチケット 0570-084-005 [Lコード:58181] 0570-000-407 (オペレーター対応 10:00~20:00)

※本誌半紙のご入場は要確認いただいております。※やむを得ない事情により、出演者、座席等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

2017年6月3日(土)10:00~
[Sinfonia会員先行 3月25日(木)]



アンドレアス・オッテンザマー (クラリネット) & ヴィンタートゥール・ムジークコレギウム

音楽一家に名門は数多いが、これほどまでにひとつの楽器で声望を高めた一家があるだろうか。アンドレアス・オッテンザマーはベルリン・フィルの首席クラリネット奏者。今、もっとも人気のあるクラリネット奏者と呼んでいいだろう。そして、その兄ダニエルはウィーン・フィルの首席クラリネット奏者。父エルンストもウィーン・フィルの首席クラリネット奏者。世界の二大オーケストラの首席クラリネット奏者のポジションを一家で三席も占めているのだから、尋常ではない。

その名門一家の若き貴公子アンドレアス・オッテンザマーが、スイスの歴史ある楽団ヴィンタートゥール・ムジークコレギウムとともにザ・シンフォニーホールにやってくる。プログラムは多彩。ソリストとして、その潤いに富んだ美音をたっぷり聴かせてくれる。

クラリネットという楽器の魅力を再発見するような、心に残る一夜となることだろう。

文=飯尾洋一



©Lars Boggs/Mercury Classics

アンドレアス・オッテンザマー [クラリネット] Andreas Ottensamer, clarinet

1989年、オーストリア・ハンガリー系の音楽一家に生まれたオッテンザマーは早くから音楽に親しみ、4歳でピアノを始め、10歳になるとウィーン国立音楽大学でチェロを学び、2003年にクラリネットに転向、ヨハン・ヒントラーに師事した。その間、ピアノ、チェロ、クラリネットで数々のコンクールで優勝を果たす。その後、ウィーン国立歌劇場管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、グスタフ・マーラー・ユーゲント・オーケストラで、オーケストラ奏者としてのキャリアを始める。2009年、ハーバード大学在学中のオッテンザマーは、ベルリン・フィル・オーケストラ・アカデミーに入学、その後、わずか21歳で、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団首席クラリネット奏者に就任し、活躍をしている。また、ソリストとしてサー・サイモン・ラトル、ヤニック・ネゼ＝セガン、アンドリス・ネルソンス、パブロ・エラース＝カサド、アラン・ギルバートの指揮のもと、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ロッテルダム・フィルハーモニー管弦楽団などと共演している。また室内楽奏者としても、マレイ・ペライア、レイフ・オヴェ・アンズネス、レオニダス・カヴァコス、ジャーヌ・ヤンセン、ゾル・ガベッタ、ヨーヨー・マと共演しているほか、スイスのピュルゲンシュトック音楽祭の芸術監督をピアニストのホセ・ガヤルドと共に務めている。2013年2月、ドイツ・グラモフォンと専属録音契約を結び、クラリネット独奏者としては初のイエロー・レーベル専属アーティストとなった。2枚目のアルバム「Brahms - The Hungarian Connection」は2015年エコークラシック賞器楽演奏家部門を受賞。2017年2月には新アルバム「New Era」がデッカ・クラシックスからリリースされた。また、ともにウィーン・フィルハーモニーの首席クラリネット奏者である父エルンスト、兄ダニエルとクラリネットトリオ「ザ・クラリネット」を2005年に結成。2016年にはトリオ初のCDをドイツ・グラモフォンよりリリースした。

ヴィンタートゥール・ムジークコレギウム Musikkollegium Winterthur

1629年に結成されたヨーロッパで最も古い歴史をもつ楽団のひとつ。現在は毎シーズン約70公演を行っており、その内約40公演をヴィンタートゥールで開催している。国外の主要コンサート・シリーズへの参加も年々増えており、シューベルトやメンデルスゾーン等を収めたCDは、国際的に注目を集めている。ヴァイオリニスト・指揮者として世界的名声を博しているトーマス・ツェルトマイヤーが2016/17シーズンより首席指揮者を務める。近年は若い世代を対象とした先駆的な企画や、才能豊かな若手アーティストの長期的な支援にも、特に力を入れている。

www.musikkollegium.ch



ロベルト・ゴンザレス＝モンハス [コンサートマスター] Roberto González Monjas

1988年、スペイン・バリアドリッドに生まれる。音楽家として幅広い分野、様々なプロジェクトに関わり、その多様性に富む活動が高く評価され、瞬く間に人気アーティストとなる。現在ローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ヴィンタートゥール・ムジークコレギウム、ヴェルビエ祝祭管弦楽団のコンサートマスターを兼任し、さらにフィルハーモニア管弦楽団、ベルリン放送交響楽団、グルノーブル・ブルグ音楽隊、バイエルン・カンマーフィルハーモニー、マンチェスター・カメラータ、バルセロナ交響楽団、ガルシア交響楽団をはじめとする数々の世界的オーケストラの客演コンサートマスターを務めている。リーダーの役割に情熱をもつロベルトは、アンサンブル・ディレクションへの取り組みを深めており、指揮の世界にも活動の場を広げ始めた。室内楽奏者としても活躍しており、ヴィンタートゥール弦楽四重奏団のメンバーを務めるほか、アナ・チュマチエンコ、クリスティアン・ツァハリアス、アンドレアス・オッテンザマー、ゴティエ・カブロン、デーネシュ・ヴァールヨシ、キット・アームストロング、ニコラス・アルステット、ジャーヌ・ヤンセン等と共演している。またジョン・コリリアーノ、レーラ・アウエルバッハ、リシャルド・デュビュシオン、ファジル・サイといった作曲家とも仕事をしている。使用楽器は、ヴィンタートゥールの5つの家族とリヒェンベルク財団から貸与された1710年製ジュゼッペ・ガルネリ「フィリウス・アンドレア」。



※本日のメンバーとは多少異なります。

今聴きたい、古楽器オーケストラの最高峰

BACH
BAROQUE
BRILLIANT

ラ・プティット・バンド

- 管弦楽組曲 第3番 二長調 BWV.1066 (弦楽合奏版)
- トリオ・ソナタ「音楽の捧げ物」 BWV.1079より
- チェンバロ協奏曲 第5番 へ短調 BWV.1056
- カンタータ 満足について「われ心満ちたり」 BWV.204 (全3曲)

2017 10/9 (月・祝) 14:00 開演 (13:00 開場) ザ・シンフォニーホール S席 5,000円 A席 4,000円(税込)

ご予約
お問い合わせ

ザ・シンフォニー チケットセンター
06-6453-2333 (10:00-18:00火曜定休) <http://www.symphonycor.jp>

※本誌中央掲載のご入場は別途確認してください。
※中心を問わず、ご希望により、公演者、曲目、会場が変更になる場合がございます。予めご了承ください。主催: The Symphony Hall